



爪白癬の潜在患者を診断・治療へつなげる ケアマネジャーの影響力調査

高山かおる¹⁾ / 菅野智美²⁾ / 大場マッキー広美³⁾ / 橋本 貴⁴⁾ / 深山 浩⁴⁾

A Survey of the Influence of Recommendation to Diagnosis and Treatment of Onychomycosis by Care Managers

Kaoru TAKAYAMA¹⁾ / Tomomi KANNO²⁾ / Hiromi Makki OBA³⁾ /
Takashi HASHIMOTO⁴⁾ / Hiroshi MIYAMA⁴⁾

1) Dermatology, Saiseikai Kawaguchi General Hospital

2) Caress Sapporo Hokko Memorial Hospital

3) Foot Helper Association

4) Medical Affairs Department, Kaken Pharmaceutical Co., Ltd.

抄録

高齢者における爪白癬は罹患率が高く転倒リスクとなるが、受診・受療していない潜在患者が多い。介護従事者、なかでも介護支援専門員（ケアマネジャー）は爪をアセスメントしたり、介護サービス事業所から報告を受けたりすることにより爪白癬に気づき、本人や家族に受診勧奨できる立場にある。そこで、ケアマネジャーに爪白癬に関する教育コンテンツおよび利用者・家族への配布を想定した疾患啓発資材を提供し、利用者への爪のアセスメントや受診勧奨を促すことにより、爪白癬の潜在患者を診断・治療へつなげるケアマネジャーの影響力を調査した。その結果、資材を配布したケアマネジャー1人あたり利用者・家族1.2人が爪について皮膚科医やかかりつけ医に相談し、そのうち80.5%（466人中375人）が爪白癬の診断に至った。また、爪のアセスメントをするほど利用者の受診を勧めるという相関がみられた。今回、ケアマネジャーによる爪のアセスメントおよび受診勧奨により、爪白癬の潜在患者をみつけ出し、診断・治療を受ける患者を増やすことができた。爪白癬の潜在患者を医療へつなげて治療を開始・継続させるためには、爪白癬は歩行障害や転倒を引き起こし、ADLやQOLの低下をもたらす感染症であるという認識を広めることや、ケアマネジャーによる爪のアセスメントの機会をより増やすことが重要であると考えられた。

キーワード：高齢者、爪白癬、ケアマネジャー、教育コンテンツ、疾患啓発資材、爪のアセスメント

1) 済生会川口総合病院 皮膚科 2) 社会医療法人 社団 カレス サッポロ 北光記念病院 3) 一般社団法人フットヘルパー協会

4) 科研製薬株式会社 メディカルアフェアーズ室

【責任筆者名】高山かおる：済生会川口総合病院 皮膚科

(〒332-8558 埼玉県川口市西川口5丁目11-5 E-mail: tkaoru.derm@saiseikai.gr.jp)

【Corresponding Author】Kaoru TAKAYAMA: Dermatology, Saiseikai Kawaguchi General Hospital

(5-11-5, Nishikawaguchi, Kawaguchi-shi, Saitama, 332-8558 E-mail: tkaoru.derm@saiseikai.gr.jp)

はじめに

爪白癬は白癬菌による表在性真菌感染症である。有病率は日本全体で10.0% (1,200万人程度)と推計され、高齢であるほど高い¹⁾²⁾。爪白癬による外観の変化や感染の問題もさることながら、爪甲の肥厚や変形をきたすことで歩行時に疼痛を引き起こし、QOLを低下させる要因になり得る³⁾。さらに、爪は指先の力のバランスをとる役割を担っており、爪白癬は転倒リスクの一つであることが報告されている⁴⁾。転倒による死亡率は高齢になるにつれて高まり、死に至らずとも骨折すればADLとQOLが大きく低下する⁵⁾。高齢者の転倒・骨折が社会的問題となっている超高齢社会の日本では、爪白癬への治療介入の意義は大きい。しかし、爪白癬は通常例では痛みや痒みといった自覚症状がなく、爪甲に変化を認めていても外傷や加齢のためと考えて医療機関を受診せずに放置されていることが多い⁶⁾。

爪白癬の潜在患者をみつけ出して診断や治療につなげる機会は介護現場に多く存在する。高齢になる

ほど爪白癬の有病率が高まるのと同様に、要介護認定率も上昇し、その認定率は65歳以上18.3%、75歳以上31.5%、85歳以上57.8%にのぼる⁷⁾。

介護従事者はアセスメントや入浴介助、レクリエーション活動等の機会に要支援・要介護高齢者(以下、利用者)の爪の異常に気づくことのできる立場にある。介護従事者のなかでも介護支援専門員(以下、ケアマネジャー)は介護保険制度に基づくケアプラン作成・管理のために定期的に自宅訪問を行っており、ケアプランに基づき介護サービスを行う事業者から異常の報告を受け、利用者・家族への受診勧奨や医療への情報連携の役割を担う。

そこで我々は、爪白癬の潜在患者が多く存在する介護現場に着目し、それに気づき得る立場にいる介護従事者、なかでも医療・介護連携を担うケアマネジャーを対象とした取り組みについて検討した。すなわち、ケアマネジャーを対象に爪白癬の教育コンテンツを提供するとともに、利用者・家族への配布を想定した爪白癬の疾患啓発資材(以下、啓発リーフレット)を提供し、爪のアセスメントや受診勧奨

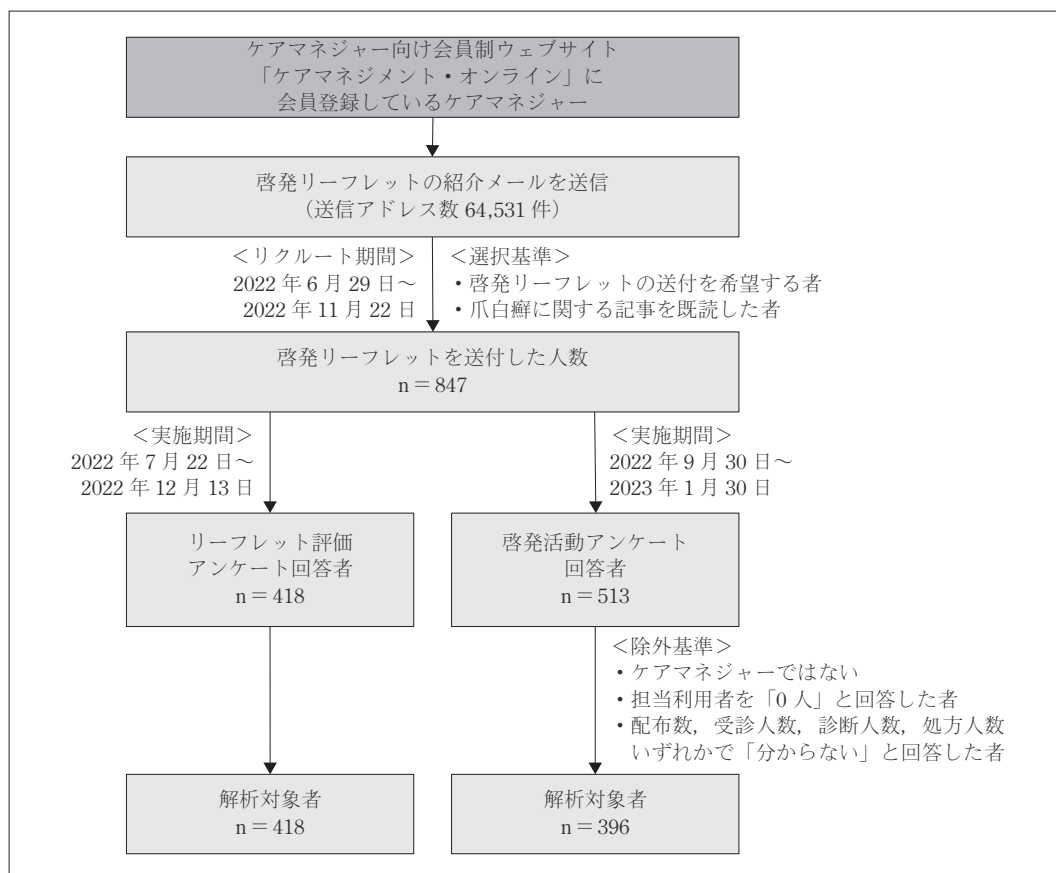


図1 研究対象者



図2 ケアマネジャーへ提供した爪白癬の啓発リーフレット

を促すことにより、爪白癬の潜在患者を診断・治療へとつなげるケアマネジャーの影響力を調査した。

対象・方法

あらかじめ爪白癬に関する知識を学ぶ機会を得ていたケアマネジャーを対象として、希望者に爪白癬の啓発リーフレットを提供し、資材への評価および利用者・家族への啓発活動の成果についてのアンケート調査を実施した(図1)。

株式会社インターネットインフィニティー(以下、IIF)が運営するウェブサイト「ケアマネジメント・オンライン」(<https://www.caremanagement.jp/>)において、2022年6月14日より爪白癬の知識を学習するための記事を配信した。その上で、当該サイトに会員登録しているケアマネジャーに対して、啓発リーフレットを希望者に提供する旨の電子メールを送信した。啓発リーフレットの提供を希望する者のうち、爪白癬記事の既読が確認できた者から順次、啓発リーフレット(図2)を30部ずつ送付した。

啓発リーフレットを送付したケアマネジャーに対し、利用者の爪のアセスメントや受診勧奨の有無、リーフレットへの評価に関するアンケート調査(以下、「リーフレット評価アンケート」:表1)および啓発リーフレットを活用した啓発活動の成果を評価するためのアンケート調査(以下、「啓発活動アンケート」:表2)を実施した。いずれもアンケートフォームのURLを書面、メール、FAX、電話で知らせ、自由意志で調査に同意した者のみが回答した。質問項目に個人情報聞き取る項目はなく、IIFでは会員情報と回答が紐づかない形で電子データを取り扱った。「啓発活動アンケート」については事前に規定した除外基準を適用して解析対象者を確定した。

なお、アンケートの募集から統計解析結果の確定まで、著者および科研製薬株式会社の社員はデータに関与していない。

表1 リーフレット評価アンケート項目

分類	質問項目
アセスメント 受診勧奨	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者さんの爪の変形・変色（異常）をアセスメントしていますか？ ・利用者さんの爪の変形・変色（異常）があった場合、受診を勧めていますか？
リーフレット評価	<ul style="list-style-type: none"> ・今回お送りしたリーフレットは利用者さん・家族に渡しやすいですか？ ・このリーフレットを使用することで、爪の変形・変色（異常）があった場合に受診を勧めやすくなりますか？

表2 啓発活動アンケート項目

分類	質問項目
資格・経験 勤務状況	<ul style="list-style-type: none"> ・あなたはケアマネジャーですか？ ・あなたの勤務先を教えてください。 ・あなたがお持ちの資格を全てお選びください。 ・ケアマネジャーとしての経験年数を教えてください。 ・あなたが現在担当している利用者を教えてください。
家族・利用者 への配布	<ul style="list-style-type: none"> ・あなたはこの爪白癬の啓発リーフレットを、利用者や家族に合わせて何枚配りましたか？ ・あなたはこの爪白癬の啓発リーフレットを、どのような利用者・家族に配りましたか？ ・あなたはこの爪白癬の啓発リーフレットを、利用者・家族に対してどのような目的を持って配りましたか？
家族・利用者 への配布 による効果	<ul style="list-style-type: none"> ・この爪白癬の啓発リーフレットを受け取った方のうち、興味を持ってくれた利用者・家族の割合はどれくらいですか？ ・この爪白癬の啓発リーフレットを受け取った後、爪について皮膚科医やかかりつけ医に相談した利用者・家族は合わせて何人いましたか？ ・皮膚科医やかかりつけ医に相談した後、爪白癬の診断がついた利用者・家族は合わせて何人いましたか？ ・爪白癬の塗り薬が新たに処方された利用者・家族は合わせて何人いましたか？ ・爪白癬の飲み薬が新たに処方された利用者・家族は合わせて何人いましたか？ ・この爪白癬の啓発リーフレットを受け取った方の反応はいかがでしたか？
アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の足や爪を何人アセスメントしましたか？ ・その中で、爪の変色・変形が見られる方は何人いましたか？
家族・利用者 以外への配布	<ul style="list-style-type: none"> ・あなたはこの爪白癬の啓発リーフレットを他のケアマネジャーさん（事業所内の同僚など）に配りましたか？その枚数を教えてください。 ・あなたはこの爪白癬の啓発リーフレットを他の介護サービス事業者に配りましたか？その枚数を教えてください。

結 果

1) 解析対象者

「ケアマネジメント・オンライン」に会員登録しているケアマネジャーを対象として、啓発リーフレットの送付希望者を募る電子メールを64,531アドレス宛に配信した。啓発リーフレットの送付を希望し、かつ爪白癬記事を既読していた847人（以下、参加者）に対して啓発リーフレットを30部ずつ送付した。参加者のうち「リーフレット評価アンケート」に回答したのは418人（49.4%）であり、全員を解析対象者とした。「啓発活動アンケート」への回答者数は513人（60.6%）であり、このうち除外基準に該当する者を除いた396人（46.8%）を解析対象者とした（図1）。

2) リーフレット評価アンケート

「リーフレット評価アンケート」において、ケアマネジャーによる爪の異常（変形・変色）のアセスメントと受診勧奨の状況についてクロス集計した結果を表3に示す。爪のアセスメントをしているケアマネジャーであるほど、異常がある場合に受診を勧めるという正の弱い相関が認められた（ピアソンの積率相関係数 $r = 0.3208$ ）。

啓発リーフレットの内容については、解析対象者の81.6%が利用者・家族に渡しやすいと評価しており、86.8%が爪の異常があった場合に受診を勧めやすくなると回答した。

3) 啓発活動アンケート

(1) 回答者の資格・経験・勤務状況

「啓発活動アンケート」において、解析対象者の64.9%は主任ケアマネジャーの資格を有しており、

表3 ケアマネジャーによる爪のアセスメントと受診勧奨

		爪の変形・変色（異常）があった場合の受診勧奨			
		全例で している	過半数で している	あまり していない	全く していない
爪の変形・変色（異常） のアセスメント	全例で している	74.1%	22.2%	3.7%	0.0%
	過半数で している	27.1%	55.2%	17.7%	0.0%
	あまり していない	22.7%	38.5%	36.6%	2.2%
	全く していない	13.6%	31.8%	27.3%	27.3%

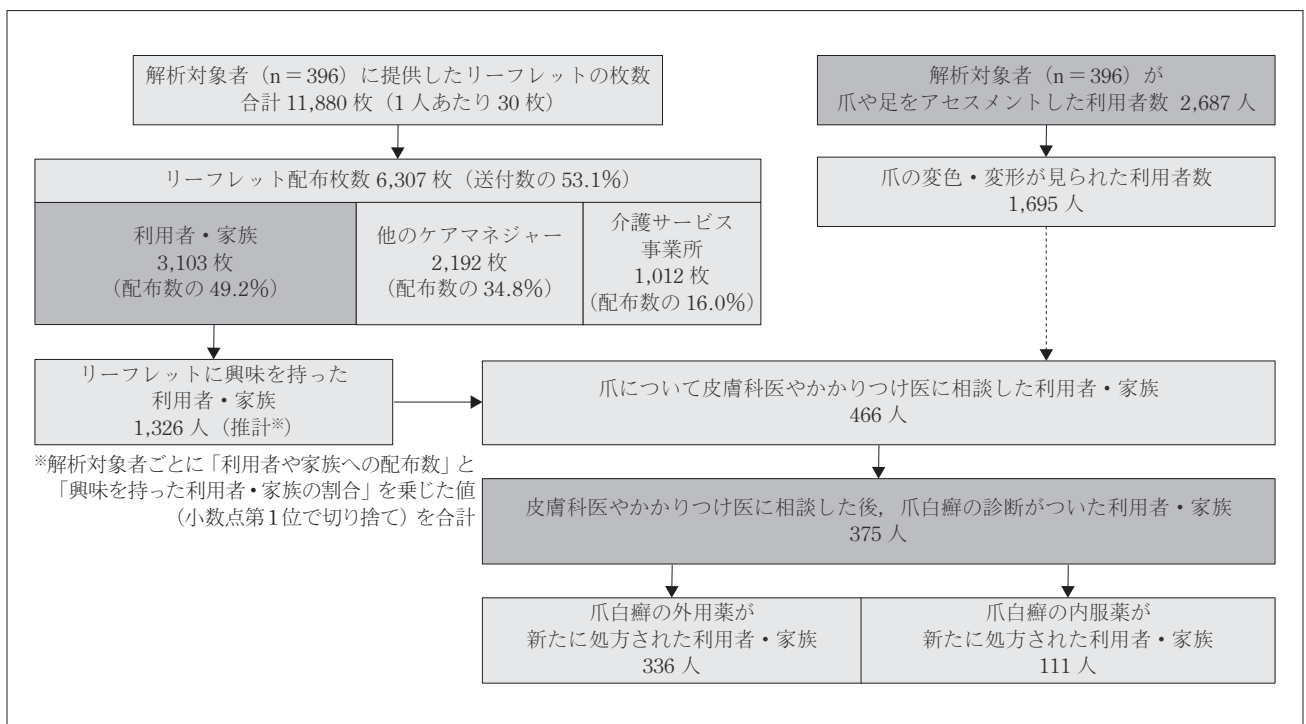


図3 爪白癬の啓発リーフレット配布や爪・足のアセスメントによる受診への影響

ケアマネジャーとしての経験年数は10年以上 (63.1%)、5年以上10年未満 (24.2%)、5年未満 (12.4%) であった。保有資格は介護福祉士 (72.0%)、社会福祉士 (24.0%)、社会福祉主事 (20.5%)、看護師・准看護師 (10.4%)、精神保健福祉士 (6.6%)、栄養士・管理栄養士 (2.8%)、その他 (14.1%) であった。勤務先は、居宅介護支援事業所 (92.2%)、小規模多機能型居宅介護事業所 (3.3%)、地域包括支援センター (3.0%)、看護小規模多機能型居宅介護事業所 (0.8%)、認知症対応型共同生活介護事業所 (0.3%)、介護付き有料老人ホー

ム (0.3%) であり、現在担当している利用者は平均 31.5 人であった。

(2) 啓発リーフレットの配布による効果

啓発リーフレットの配布および爪や足のアセスメントによる受診への影響を図3に示す。解析対象者1人あたり30枚の啓発リーフレット (合計11,880枚) の53.1%にあたる6,307枚が配布され、その内訳は利用者・家族 (49.2%)、他のケアマネジャー (34.8%)、介護サービス事業所 (16.0%) であった。啓発リーフレットに興味を持った利用者・家族は1,326人と推計された。啓発リーフレッ

表4 啓発リーフレットへの反応

カテゴリー	サブカテゴリー	代表的なコード* (全503回答)
リーフレットの閲覧 (128回答)	興味・関心 (34回答)	「真剣に見ていらした」「興味をもって説明をよく聞いてくれた」
	感謝 (8回答)	「皆さん、長年困ってたのでこの様な啓発は嬉しいと喜ばれてました」
	消極的 (63回答)	「予想したよりは反応が少なかった」「リーフレットを見せ丁寧に説明しても反応薄い」
	どちらともいえない (23回答)	「一応目を通していただけました」「とても熱心に読まれている人、全く興味を示さなかった人、家族様が熱心に読まれていた等 様々な反応がありました」
リーフレットの評価 (64回答)	写真 (24回答)	「写真とご自分の爪を注意深く見比べていました」
	平易・見やすい (19回答)	「わかりやすいと好評だった」「説明文が長すぎず、写真と短い文章で目にしやすかった」
	参考になる (17回答)	「勉強になると仰っていた」
知識を得た (91回答)	勉強不足 (4回答)	「もう少し詳しい内容だといいのに」
	爪白癬への理解 (25回答)	「足の爪が水虫になることを知らなかったという利用者、家族がほとんどでした」 「爪や足先についてケアの重要性が理解された様子でした」
	転倒リスクの理解 (43回答)	「転倒リスクやADLの低下につながる恐れがあることにびっくりされている方が多かった」 「爪白癬を軽視していたが、ADL・QOLへ影響すると聞き、気を付けたいと思った」
	感染リスクの理解 (3回答)	「下肢の蜂窩織炎の発症が爪白癬が原因かもしれないと知って驚いていた」
	爪への意識 (9回答)	「爪への意識を高めてもらった」
知識の適用 (66回答)	治療必要性の理解 (11回答)	「水虫は塗っても治らないと思っていたが、リーフレットを見て、少し理解が変わった」
	自分事 (37回答)	「それまで自分の爪の変色の理由がわからなかったようだが、まさに爪白癬だと気づきショックを受けていた」
	他人事 (9回答)	「自分は違うと思われたようで、あまり深刻には受け取ってもらえませんでした」
	軽視 (17回答)	「あまり重く考えておらず、みんな水虫くらいはあるという人が多かった」 「受診や治療を受けなければという危機感は低く、重要性が今一つ感じられていない」
受診を阻む課題 (40回答)	状況把握 (3回答)	「爪切りができない等、困っている人が多かった」
	受診先 (3回答)	「爪のことは気になっているが、どこに相談したらいいかわからず放置していた」
	受診困難 (11回答)	「皮膚科に行くにもご家族の介助が必要なため、受診をためらっている様子でした」
	治療への疑問 (14回答)	「説明は聞いてくれたが、どうせ治らないからいいんだよ、と言われた」 「治療効果がすぐに表れない、やっても変わらないとの声が多い」
	痛み・痒みなし (7回答)	「リーフレットの写真を見て自分の爪も爪白癬だと気づいたものの、受診を勧めても乗り気でない様子。痛みが無いので保留されているようだ」
受診 (98回答)	市販薬 (5回答)	「皮膚科へ通院するのが難しいので、市販の薬を紹介してほしいと言われた」
	受診 (90回答)	「爪白癬があるが受診を拒否している利用者の担当者会議で家族や介護スタッフにリーフレットを配布したところ、爪・足の変形、歩行能力低下等の話になり、本人も家族も熱心に聞きスムーズに皮膚科受診につなげることができた」
利用者以外への影響 (16回答)	検討 (8回答)	「現在の状態が普通ではないことは理解しているが、受診には至っていなかった方が受診を検討するようになった」
	家族への影響 (12回答)	「爪白癬のため爪の変形や巻き爪などで爪切りに苦労されている家族は、爪の健康がADLやQOLに影響することに驚き、受診の必要性を感じていた」
	介護スタッフへの影響 (4回答)	「爪白癬に関する専門的な知識がなかったため、リーフレットは利用者のアセスメントを行う上で有意義だった」

※文意を変えない範囲で一部改変

トを受け取った後に爪について皮膚科医やかかりつけ医に相談した利用者・家族は466人で、そのうち爪白癬の診断がついた利用者・家族は375人いた。爪白癬の外用薬が新規処方された者は336人

で、内服薬が新規処方された者は111人であった。

(3) アセスメント

啓発リーフレットの配布に関わらず、解析対象者が爪や足をアセスメントした利用者は2,687人で、

そのうち爪の変色・変形がみられた利用者は1,695人であった。

(4) 啓発リーフレットの配布対象と目的

啓発リーフレットの配布先として、爪の変色・変形がみられる人(62.6%)、足白癬がある人(39.6%)、渡せる利用者・家族全員(23.2%)、爪白癬の治療を中断している人(16.9%)、その他(5.1%)が挙げられた。啓発リーフレットの配布目的については「皮膚科を受診してほしい」が58.3%で最多であり、「かかりつけ医に相談してほしい」は32.3%であった。他にも「爪トラブルが転倒リスクになるため」(44.9%)、「爪の健康がADL, QOLへ影響するため」(44.2%)、「爪白癬の感染予防のため」(43.7%)、「爪白癬の治療継続を促すため」(23.0%)が選択された。

(5) 啓発リーフレットへの反応

啓発リーフレットを受け取った人の反応について、任意の自由回答形式で収集した。452回答のうち、意味を成さない7回答を除外したうえで1回答1エピソードになるよう細分化した503回答を解析対象とした。

カテゴリーは行動変容の流れとその阻害要因を明らかにする目的で、「リーフレットの閲覧(128回答)」、「リーフレットの評価(64回答)」、「知識を得た(91回答)」、「知識の適用(66回答)」、「受診を阻む課題(40回答)」、「受診(98回答)」、「利用者以外への影響(16回答)」に分類された。

表4に代表的なコードを示す。

考 察

全国の居宅介護支援を行うケアマネジャーを介した爪白癬の疾患啓発活動は、我々の知る限り初めての取り組みである。介護現場には爪白癬の潜在患者が多く存在し、それに気づき得る立場にいる介護従事者のなかでも医療・介護連携を担うケアマネジャーを対象としたことに新規性があり、地域包括ケアシステムにおける多職種連携の発展に資することが期待される。

介護保険の第1号被保険者(65歳以上)数は、2021年度末時点で677万人であり、このうち軽度の認定者(要支援1～要介護2)は444万人(66%)を占める⁹⁾。軽度の認定者はADLやQOLの維持・向上をめざして歩行や外出、リハビリなどの身

体活動を行うよう支援されている。

軽度の認定者で介護施設等に入居している者は1割程度しかおらず、ほとんどが自宅等で暮らしている¹⁰⁾。訪問診療を利用している軽度の認定者は9.5%に留まり¹¹⁾、多くは家族や介護従事者の支援を受けながらフリーアクセスで医療機関へ外来受診していると考えられる。このような高齢者や家族に爪白癬の病識や知識がなければ、受診・治療せずに放置する、もしくは科学的に有効性が証明されていない方法で自己治療を試みるといった行動につながる可能性が懸念される。

高齢者の中でも要支援・要介護認定を得て何らかの介護保険サービスを受けている者(利用者)に対して、ケアマネジャーはケアプランの管理のために定期的な自宅訪問を行うことが義務づけられている。その際にケアマネジャーが爪のアセスメントをすれば、爪白癬が疑われる利用者に気付くことができる。また、介護サービス事業者(ヘルパー、デイスタッフ等)が何らかの異常に気づいた際はケアマネジャーに報告する義務があるため、介護従事者がみつけた利用者の爪の異常に関する情報はケアマネジャーに集約される。

そこで我々は、ケアマネジャーの爪白癬の潜在患者を診断・治療へとつなげる影響力を調査した。

まず、全国のケアマネジャーを対象に教育コンテンツ(爪白癬記事)を配信し、爪白癬のリスクや診断・治療に関する教育を行い(図4)、ケアマネジャーが得た知識を利用者に対する啓発活動に活かしやすいように啓発リーフレットを提供し、その成果を調査した。

啓発リーフレットについては、爪白癬の感染リスクを訴求すると利用者に声かけしにくくなることが想定されたため、転倒リスクに焦点を絞って声かけしやすく、利用者も家族も介護従事者も治療の必要性を感じやすくなるように工夫した(図2)。

ケアマネジャーが配布した3,103枚の啓発リーフレットに対して、利用者・家族1,326人が興味を持ち、そのうち466人が爪について皮膚科医やかかりつけ医師に相談し、375人が爪白癬と診断されるという結果が得られた。この爪白癬の診断率の高さ(80.5%)は、居宅介護支援の現場において爪白癬の潜在患者が数多く残されていることを示していると考えられた。なお、爪白癬の外用薬と内服薬が処

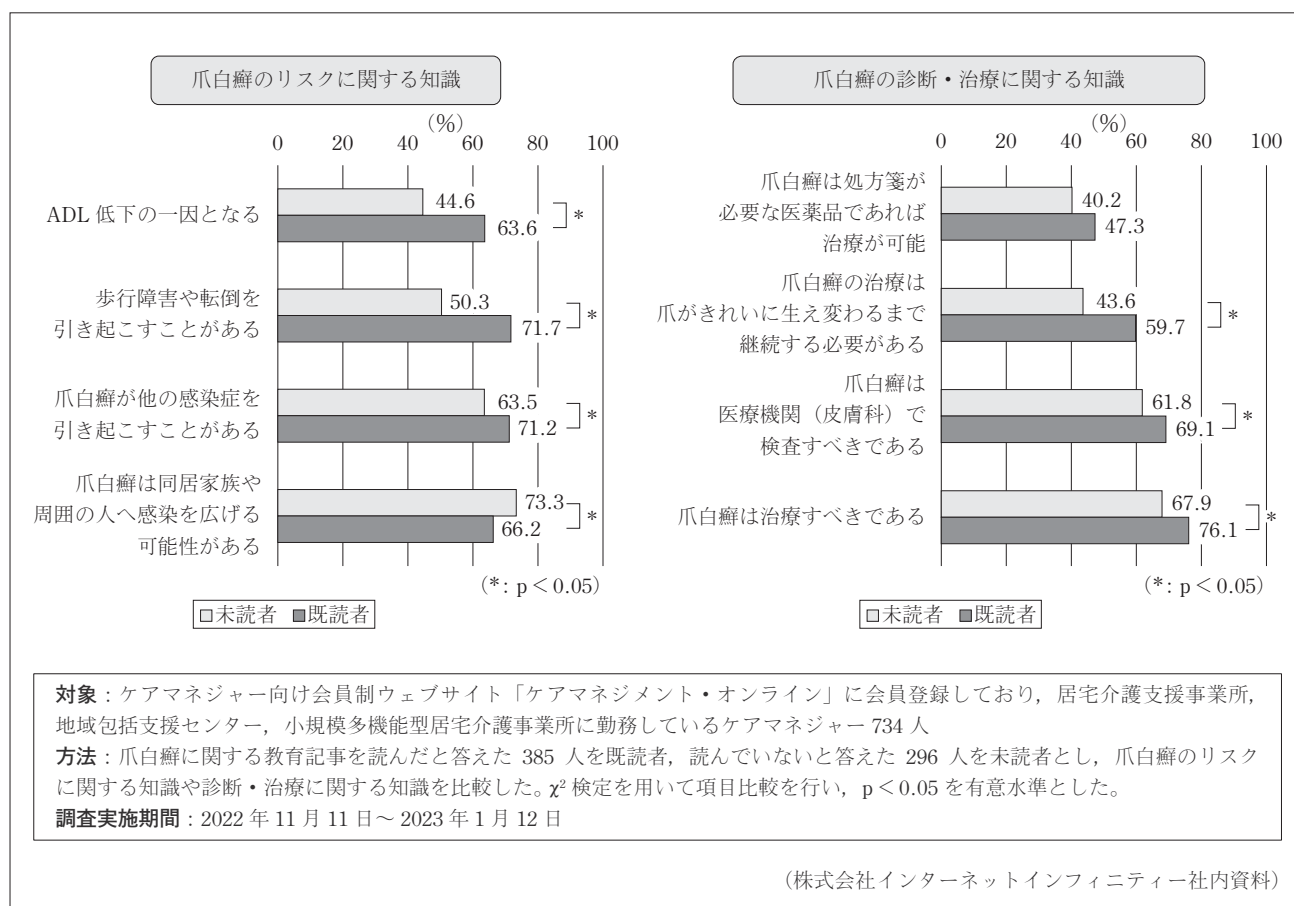


図 4 教育によるケアマネジャーの知識変化

方された人数の合計 (447 人) が、今回爪白癬と診断された人数 (375 人) よりも多かった理由として、「以前から爪白癬と診断されていた人の処方薬を含めた」、「治療を中断していた人が集計されていなかった」などの、アンケート回答時の過少・過大報告の可能性が考えられた。

解析対象となったケアマネジャー自らが利用者・家族に配布したリーフレットの影響について結果を示したが、配布リーフレットの 34.8% は他のケアマネジャーに渡されており、それらも同程度に利用者・家族や介護サービス事業所へ配布され、受診や受療につながった可能性がある。また、啓発リーフレットの 16.0% が介護サービス事業所に渡されたのは、知識共有や情報連携を促す目的で行われたものと推察された。さらに、啓発リーフレットの影響に限らず、ケアマネジャー自身による爪のアセスメントや介護サービス事業所からの情報提供による受診勧奨も影響していると考えられ、実際にはもう少し多い利用者・家族が皮膚科医やかかりつけ医に相談し、爪白癬と診断されたかもしれない。

解析対象となったケアマネジャーの約 9 割は経験年数が 5 年以上あり、約 6 割が主任ケアマネジャーであるため、介護の知識と経験が豊富であると推察される。約 7 割が介護福祉士であることから、介護現場での実務経験を通じて爪の異常を目にする機会があったと考えられた。啓発活動アンケートの解析対象者が担当している利用者は合計 12,474 人であり、そのうち 21.5% がケアマネジャーによる爪や足のアセスメントを受けた。アセスメントを受けた利用者のうち 63.1% に爪の変色・変形がみられた。介護老人福祉施設を利用する高齢者の足には爪症状が 87.5% 認められたとする報告¹²⁾ や、訪問看護ステーション利用の在宅高齢者において爪の変色は 3.53 ± 3.96 (10 足趾の爪の平均値 \pm SD)、肥厚は 2.53 ± 3.25 、未診断の爪白癬は 2.21 ± 3.63 であったとする報告がある¹³⁾。これらと直接的な比較はできないが、ケアマネジャーによる爪のアセスメントによる潜在患者のみつけ出しは有用であり、精度を上げる余地があるかもしれない。爪のアセスメントをするほど、異常がある場合に受診を勧めるという

弱い相関があったため、爪白癬の受診をさらに促すためにはケアマネジャーによる爪のアセスメントの機会をより増やすことが求められる。また、ケアマネジャーが利用者の爪白癬に気づく経路として、入浴介助やレクリエーション活動等を行う介護サービス事業者から情報共有を受けることも大きな経路となるだろう。

以上より、爪白癬の潜在患者が多く存在する介護現場に着目し、それに気づき得る立場にいる介護従事者のなかでも医療・介護連携を担うケアマネジャーを対象とした取り組みについて検討した結果、介護現場における爪白癬の潜在患者をみつけ出すための新たな方法を提示・確認することができた。

当調査の限界として、回答者は特定のウェブサイトを通じて募集し、あらかじめ爪白癬の知識を学習したケアマネジャーを対象としているため、回答者の選択にバイアスが生じている可能性がある。受診や受療の状況については、回答者から得られた間接的な情報であり、過少または過大評価している可能性がある。

結 論

今回、爪白癬の潜在患者を診断・治療へとつなげるルートとして、ケアマネジャーを介した疾患啓発活動が有用であることが明らかとなった。利用者・家族だけでなく介護従事者に対しても、爪白癬は歩行障害や転倒を引き起こし、ADLやQOLの低下をもたらす感染症であるという認識を広めることが、爪白癬治療の開始や継続に重要であると考えられる。

利 益 相 反

本調査は、科研製薬株式会社の資金により実施された。IIFは科研製薬株式会社からの依頼を受けてアンケートの実施、結果の集計、電子データ化を行った。著者の橋本貴、深山浩は科研製薬株式会社の社員である。投稿費用は科研製薬株式会社が負担した。本論文の作成にあたっては、科研製薬株式会社より資金提供を受けて田中留奈（伝わるメディカル）が執筆・編集の支援を行った。

謝 辞

本研究の実施にあたり、アンケート調査、データ収集、統計解析にご協力頂きましたIIFの門脇正周氏、太田亮輔氏に謝意を表します。また、アンケート回答にご協力いただいたケアマネジャーの皆様にも深く御礼申し上げます。

文 献

- 1) 日本皮膚科学会皮膚真菌症診療ガイドライン改訂委員会：日本皮膚科学会皮膚真菌症診療ガイドライン2019. 日皮会誌 2019; **129**: 2639-2673.
- 2) 仲 弥, 宮川俊一, 服部尚子ほか：足白癬・爪白癬の実態と潜在罹患率の大規模疫学調査 (Foot Check 2007). 日臨皮誌 2009; **27**: 27-36.
- 3) Gupta AK, Mays RR: The Impact of Onychomycosis on Quality of Life: A Systematic Review of the Available Literature. *Skin Appendage Disord* 2018; **4**: 208-216.
- 4) 加藤豊範, 吉田章悟, 鈴木絢子ほか：回復期リハビリテーション病棟における転倒予測因子の解析—足爪白癬のリスクとその治療の有用性の評価—. *Prog Med* 2020; **40**: 425-429.
- 5) 大高洋平：高齢者の転倒予防の現状と課題. *日本転倒予防学会誌* 2015; **1**: 11-20.
- 6) 原田敬之：爪白癬. *Med Mycol J* 2011; **52**: 77-95.
- 7) 厚生労働省：年齢階級別の要介護認定率. *In*：令和4年度版厚生労働白書, 図表2-1-4, 2022.
- 8) 厚生労働省：平成29年介護サービス施設・事業所調査 (年報).
- 9) 厚生労働省：令和3年度介護保険事業状況報告 (年報).
- 10) 国土交通省：高齢期の居住の場とサービス付き高齢者向け住宅の現状に関する調査報告 (令和2年2月27日修正版). サービス付き高齢者向け住宅に関する懇談会第3回配布資料. <https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/house/content/001326861.pdf> [2024/1/4 閲覧]
- 11) 豊中市：第8期 (2021～2023年度) 豊中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画, p. 32. https://www.city.toyonaka.osaka.jp/kenko/kaigo_hukushi/keikaku/8keikaku.files/8keikaku_zentai.pdf [2024/1/4 閲覧]
- 12) 小笠原祐子, 高山かおる, 佐手達男ほか：高齢者のセルフケアにおける足部状態の実態. *日本フットケア学会雑誌* 2013; **11**: 70-76.
- 13) 藤井かし子：訪問看護ステーション利用在宅高齢者における足病変とセルフケア行動の実態—歩行能力との関連性の分析—. *教育医学* 2018; **64**: 167-180.